

第2学年 道徳（人権）学習指導案

2年生 23名
指導者 2年担任

1 主 題 差別に立ち向かう

2 主題設定の理由

本校は全校生徒72名、2年生は23名と小規模の中学校である。そのためにクラス替えはなく、3月に転校した1名を除いて、去年と同じメンバーで新年度を迎えることになった。学級開きでは、2年生になった自覚をもち、学校では先輩として後輩の模範となり、中堅学年として学校を支えていけるようにしてほしいと担任の願いを語った。そして、みんなで協力して何事にも取り組んでいこうという思いを込め、学年目標を「Let's do it !!」と決めて、クラス全員でがんばろうと誓った。

本学年の生徒たちは、明るく元気である。4月には修学旅行に行き、日頃共に生活している級友の新たな一面を発見することができて、よりクラスの団結を深めることができた。職場体験学習では、働くことの意義や苦労を実感し、将来の自分について考えるきっかけになった。しかし、その一方で、仲のよい小集団の中で平穏に暮らしてきたために、学級全体の様子に無関心で、悩みを抱えている仲間積極的に関わろうとする生徒が少ないことが課題である。

そこで、自分や相手のことを大切にして、互いを認め合おうとする意識を高めることを目的に学級活動「よいところ探し」を実践した。また、「今を一生懸命生きることの大切さ」を感じてほしいと考え、同じ年代の生徒の作文を資料として用いた「生きること」や、修学旅行での体験を生かした「平和学習」を進めてきた。授業を通して、「今まで支えられていることで家族やクラスみんなにありがとうと言いたい。」といった発表や、互いの個性を認めたいと考えることができるようになった。

人権学習についての「差別はいけない」ということは頭では理解しているが、自分の問題として捉えきれていない現状がある。それぞれの生徒が他人事とせず、仲間と共に考えながら、今の自分たちにできることを考えて行動する力を身に付けてほしいと思う。道徳「手紙一タやけがうつくしい」を学習することにより、「文字の読み書きができるようになりたい」という人間としての切実な願いを踏みにじった部落差別に対して憤りをもつとともに、生徒一人一人が自分の問題として考えられるようになりつつある。

本資料「字は命」は、実際に識字学級へ交流会に行った旧神山東中学校の卒業生の作文である。この資料にある「差別がいけないことと頭ではわかっていたが、心でわかる第一歩となった」という体験談をもとに、識字学級に対する理解と部落差別の解消への思いをさらに深めたい。「字は命」と語る識字学級で学ぶ方の姿から、今でも差別によって苦しんでいる人がいたり、当たり前で生活する権利さえも奪われたりする不当さに憤りをもたせたい。また、差別やいじめを許さず、正しいと思った道を自ら切り拓き、胸を張って強くたくましく生きていく生徒を育てたい。そのために、自分の身近な生活の中で、見過ごされてきた不合理な差別を見抜き、差別に立ち向かう強い意志と態度を育てたいと考え、この主題を設定した。

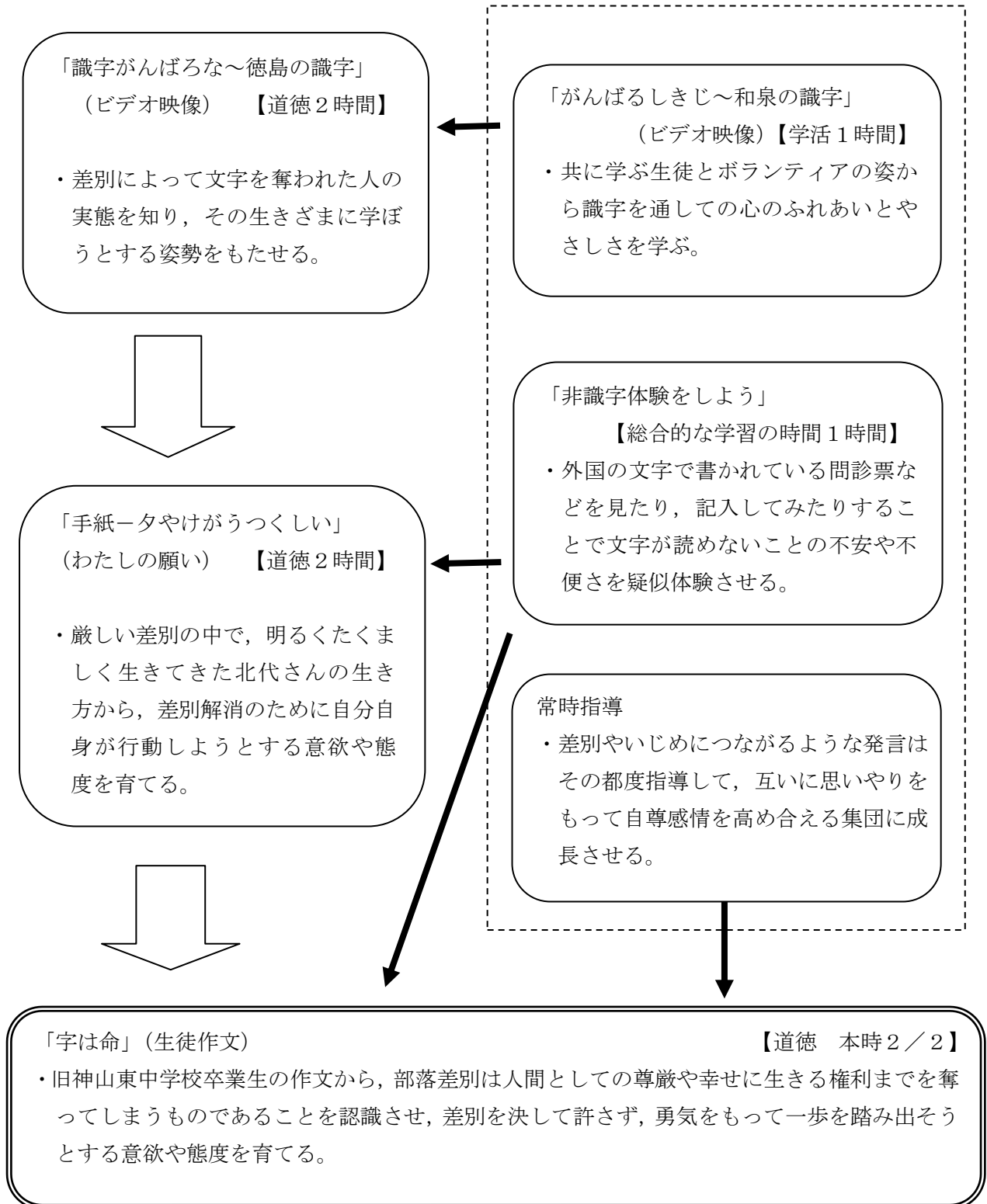
3 ねらい

人として当たり前の権利さえも奪ってしまう部落差別に対して憤りをもたせ、勇気をもって、差別解消に向けて自ら行動しようとする態度や意欲や実践力を育てる。

4 指導計画

〔主題に関する人権学習〕

〔関連する学習及び学校行事、常時指導等〕



5 本時の学習

(1) 目 標

旧神山東中学校卒業生の作文から、文字を奪ってしまう差別は決して許さず、身の回りの差別解消に向けて勇気をもって一步を踏み出そうとする意欲や態度を育てる。

(2) 個人権課題名 同和問題

(3) 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 前時の学習についてふり返る。	○字は命の作文を読んでの感想をふり返らせる。
2 「識字学級というのは重くて暗い雰囲気と想像した作者はなぜそう思っていたのか考える。	○自分では気付いていない識字学級に対する偏見や差別に近い筆者の考えに気付かせる。
3 文字を奪われた人にとって文字の意味を考える。	○作文内の「字は○○」に当てはまると考えられる語をそれぞれ考え、班で意見を交換して、発表させる。
「一步が踏み出せない人がたくさんいる」のはなぜだろう。	
4 「なかなかその一步が踏み出せない人がたくさんいる」のはなぜか考える。	○まだ根強く続いている差別がある現状に気付かせる。 ①
5 これまでの生活をふり返る。	○偏見が差別を生み、差別は許されないことであるということを確認し、自分の周りにないかふり返らせる。 ①②
6 自分の日常で勇気を出していきたいことを考え、発表する。	○これまでの学習から、差別をなくすために自分にはどんなことができるか考え発表させる。 ②③

(4) 評 価

- ・ 部落差別は人間としての尊厳や幸せに生きる権利までを奪ってしまうことを理解できたか。 【知識的側面】 ①
- ・ 差別解消に向けて自分にできることを考え、行動しようとする意欲が高まったか。 【価値的・態度的側面】 ②
- ・ 差別解消に向けて自分の考えを発表することができたか。 【技能的側面】 ③